

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語学習者の待遇表現
Author(s)	アジモワ, シェムス
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 35期 : 33 - 43
Issue Date	2020-10-30
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050141
Right	
Relation	



日本語学習者の待遇表現

アジモワ・シェムス

1. はじめに

現在日本語学習者はますます増加している。毎年行われている日本語能力試験の 2019 年「過去の試験のデータ」によれば、受験者数は 1,168,533 人であるが、2010 年「過去の試験のデータ」を見ると、受験者数は 607,972 人である。9 年間で、560,561 人増えた。しかし、「日本語が難しい」と考えている外国人も多く、途中で日本語学習をやめる人も結構いる。アメリカ国務省の 2012 年「外国語習得難易度ランキング」によれば、日本語が世界で一番難しい言語であり、学ぶには 88 週間ぐらいかかる。

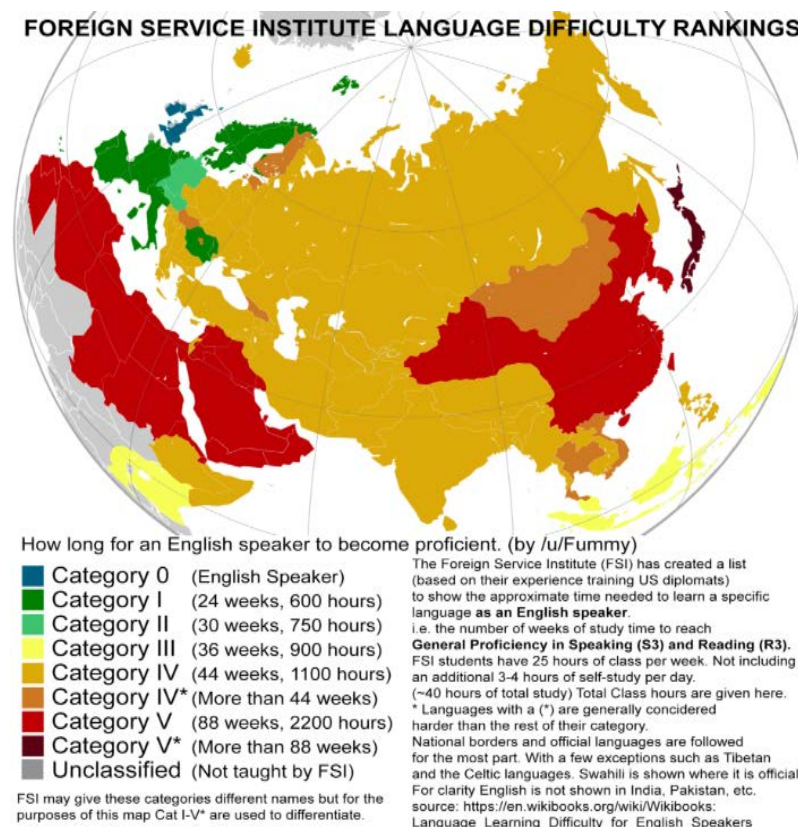


図1 アメリカ人(英語母語話者)にとっての言語習得難易度を示している。

外国人は日本語がなぜ難しいと考えるのかを知るために日本語を勉強中の外国人に、「日本語のどこが難しい？」と聞くと、半分以上の人は漢字と答えるはずである。日本人は学校で9年かけて勉強するが、子供のころからアルファベットにしか慣れていない外国

人は平仮名やタカナだけではなく、約 2,136 字もの漢字を覚えるのに 2 年以上かかる。中国語でも漢字が使われているが、日本語には、漢字の「音読み」と「訓読み」の二つの読み方があることで、さらに複雑になる。また、必須語彙数が多いことも難しさの要因である。日本語における必須語彙数は、だいたい 7,000~10,000 語くらいだろうと言われていいる。特に、日本語のオノマトペの数は、日常会話で最低限覚えるべき表現だけでも 600 以上あり、覚えるのが難しい。また、方言が多いという複雑な問題もある。教科書にない方言は日本に来た外国人にとって理解しにくい。

さらに日本語学習者が習得困難であると予想される項目の一つとして敬語表現があげられる。

西田(1987)によれば、敬語表現がある言語とない言語は以下のとおりだ。

A 敬語のある言語

a 敬語専用語のある言語

1. 尊敬語、謙譲語を豊富に備えている言語：日本語、韓国語、ジャワ語、チベット語、ベトナム語、ペルシア語、タイ語など

2. 人称代名詞に敬語専用語のある言語：ウルドゥー語、オランダ語、スペイン語、ポロランド語など

b 普通語を転用した敬語のある言語

1. 人称代名詞に転用敬語のある言語：フランス語、ロシア語、フィンランド語、トルコ語、イタリア語など

B 敬語のない言語：英語、アラビア語、スワヒリ語

この分類を見ると、日本語と同じシステムを持っている言語は少ないということがわかる。そのため、敬語の文法が全くない言語が母語の日本語学習者には敬語の意味が分からないし、どのような場合に使えばいいかも理解できない。お年寄り、目上の人、知らない人と話す際に、間違っ普通形を使っている、例えば尊敬語の代わりに間違っ謙譲語を使っている外国人は多い。そこで、日本語教育において大きなテーマと言われる敬語に関する研究をしようと思った。

敬語がなぜそれほど必要なのかと疑問に思っている日本語学習者は多いと思う。そのため、この研究の始めにその理由を確認する。本稿では、敬語表現の使用状況を明らかにすることに重点を置き、そのうえで、文献を参照しながら、日本語学習者にとって「敬語表現」の問題がどこにあるか見つけ、日本語教育で敬語を簡単に教える方法を模索したい。

2. 先行研究

敬語は日本語学習者が学習するうえで抱えている大きな課題の一つである。日本語学習者を対象とした敬語に関するアンケート調査も実施されている。宮岡・玉岡(2002)は上

級レベルの中国系日本語学習者と韓国系日本語学習者の敬語習得について研究している。また、蒲谷宏（2006）は、敬語表現教育の方法について研究している。また、北直美（1995）は日本語教育における待遇表現を研究している。

3. 「待遇表現」／敬語／敬語の種類

3.1 待遇表現

「待遇表現」とは、文化庁（1996）によれば、「話し手とその場の人間関係や場所柄・状況などについての気配りを土台にして選ぶいろいろな表現、つまり、敬語も含むさらに広い範囲の言葉選びの事実、およびそこで選ばれる具体的な言語表現を総称した言い方である。つまり、『自分』、『相手』、『話題』、相互の『人間関係』や『場』の状況を認識し、適切な『題材』、『内容』を選択し、適切な『敬語』を用いることによって、『文話』『談話』『文章』を構成する、一連の『敬語表現』である。」

3.2 敬語

待遇表現の中でも日本語学習者にとって大事なのが「敬語表現」である。敬語は、古代から現代に至る日本語の歴史の中で、一貫して重要な役割を担い続けている。その役割とは、人が言葉を用いて自らの意思や感情を人に伝える際に、単にその内容を表現するのではなく、相手や周囲の人と、自らとの人間関係・社会関係についての気持ちの在り方を表現するというものである。

3.3 指導法・教授法

蒲谷宏（2006）によれば、初級の初期にも、会話の中で「お名前は」「お国は」などの形で扱われていることもあり、文体の違いということで、フォーマル・インフォーマルの違いを強調しているものも見られる。中級以上では、文体の違いや「敬語表現」の考え方などについても理解させる必要がある。中級以上の教科書の中で、文体を「フォーマル」「インフォーマル」の2分類で表すものが見られる。

また、蒲谷宏（2006）によれば、敬語や敬語表現に関する正確な知識を持ち、学習者が「敬語」を適切に使えるように、適切な「敬語表現」が使い分けられるように教育すること、そして、学習者に誤解を与えないような教材を開発することが必要である。

3.4 敬語の種類

敬語は[尊敬語、謙譲語、丁重語]の3種類だった。しかし、2007年（平成19年）に文化審議会が答申した「敬語の指針」によって、2017年（平成29年）現在、敬語は[尊敬語、謙譲語、丁重語、丁寧語、美化語]の5種類に分類されている。

表1 敬語の種類

旧3種類	新5種類	意味	使い方／例
尊敬語	尊敬語	相手に対して敬意を表現する。相手の動作や状態に敬意を表す。	(1)動詞に言葉を加えたもの（「お ～になる」） （例）書く → お書きになる (2)動詞とまったく違う言葉に変えたもの（例）行く → いらっしゃる (3)動詞に「れる」「られる」をつけたもの（例）飲む → 飲まれる
謙譲語	謙譲語	話をしている相手が自分より目上の人の場合に用いる。	(1)動詞に言葉を加えたもの（「お（ご） ～になる」） （例）知らせる → お知らせする(2)動詞とまったく違う言葉に変えたもの（例）言う → 申す
丁寧語	丁寧語	丁寧な言葉づかいによって相手への敬意を表す。高める相手の有無を問わず幅広く使う	語尾に「です」、「ます」、「ございます」などを使う
	美化語	上品な言葉づかいによって相手への敬意を表す。高める相手の有無を問わず幅広く使う	「ご」「お」等の接頭語をつける（「ご飯」、「お茶」など）
	丁重語	自分の動作をへりくだることで丁寧な表現をする。	・参る／申す／拙著／小社

表1の「旧3」に書いてある説明が日本語教科書でもよくある説明で、日本語学習者にはその違いが分からない場合がある。どのような場合に、どのように敬語が使われているのか、それを日常生活で使わない場合、理解できないだろう。アニメやドラマに興味を持っている外国人は敬語をよく耳にするかもしれない。例えば：「いらっしゃいませ」、「よろしく願いいたします」、「申し訳ございません」、「ありがとうございました」などの敬語表現をよく耳にする。しかし、それだけで足りない。

日本人にとっても敬語はそれほど難しいだろうか。現在日本の小学校や中学校では、国語科の教科書で、小中高の段階や学年に応じ、例えば「丁寧な言葉と普通の言葉」や「敬体と常体」という2分類、あるいは尊敬語・謙譲語・丁寧語の3分類、これに美化語を加えた4分類などの枠組みによって、敬語の種類や仕組みを学習・指導している。子供のころから、敬語を学んでいる日本人にとって、敬語はそれほど面倒なテーマではないよ

うにも思われるが、日本人向けの、ビジネス日本語の本、授業、ビデオ説明などがあるので、日本人にとっても、敬語はそれほど簡単ではないことが分かる。

4. 研究調査

2020年6月中旬から7月上旬まで「敬語使用に関するアンケート」を行った。本研究の調査対象者は日本人が26名、色々な国の日本語学習者が48人である。質問は、16問（年齢、国籍、性別を含む）で、敬語表現、また「敬語と日本社会」に関する質問をした。

・ **調査対象者** — 74名（外国人日本語学習者48名、日本人26名）

アゼルバイジャン人20名、中国人5名、インドネシア人4名、インド人・台湾人・イラン人各3名、ミャンマー人・ベトナム人各2名、エジプト人・韓国人・ニュージーランド人・ラオス人・ハンガリー人・タイ人各1名

日本人の出身地：広島県5名、東京都3名、大阪府・静岡県・熊本県・福岡県各2名、埼玉県・大分県・鹿児島・長崎県・山口県・岐阜県・神奈川県各1名

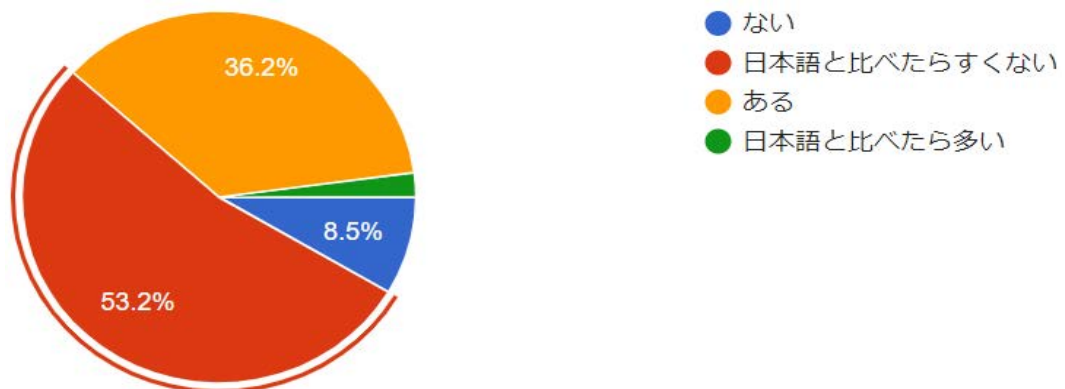
— 74名中52人が20代、22人が30代以上

— 女性は65%、男性は35%

— 職業：学生53%、社会人47%

アンケート調査の分析

日本語学習者に「母語にも敬語のような話し方がありますか」と尋ねた。回答の結果は以下の通りである。



グラフ (1)

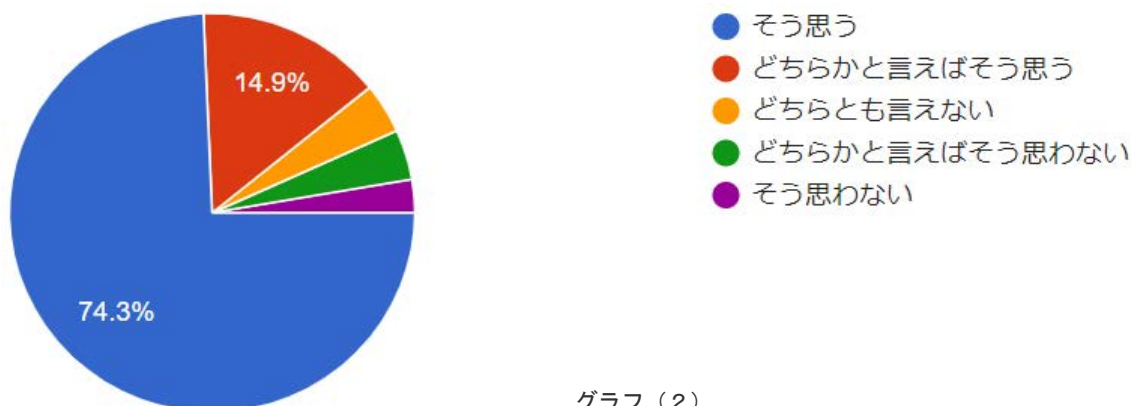
日本語学習者の母語でも敬語のような話し方があるかに関して質問したが、53, 2%の人が「日本語と比べたらすくない」と 36, 2%の人が「ある」と答えた。詳細を図 (3) に示す。

ない	アゼルバイジャン人7名、インドネシア人1名
日本語より少ない	アゼルバイジャン人8名、中国人4名、台湾人3名、タイ人・インド人・ハンガリー人・ラオス人・エジプト人・ベトナム人各1名
ある	アゼルバイジャン人4名、インドネシア人3名、イラン人3名、ミャンマー人2名、ベトナム人・ニュージーランド人・インド人・中国人1名
日本語より多い	アゼルバイジャン人1名

表2

この表を見ると、上に引用した、西田(1987)の調査結果と合っている。回答した日本語学習者の中では、「人称代名詞に転用敬語のある言語」のほうが多いことが分かる。

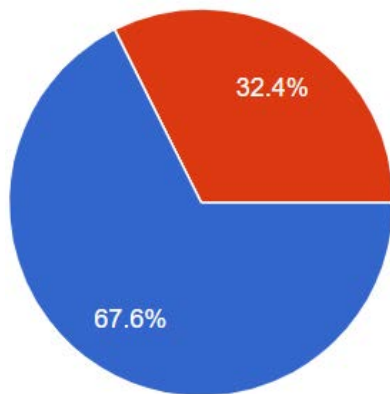
次に、日本語学習者と日本人に「日本社会で敬語が必要だと思いますか」と尋ねた。回答の結果は以下の通りである。



グラフ (2)

グラフ (2) を見ると、74, 3%が日本社会で敬語が必要だと思うと答えた。「どちらかといえばそう思わない」と答えた3人、「そう思わない」と答えた2人は日本語学習者である。小学校の時から敬語を学んでいる日本人の方が、敬語が重要だと考えていることが分かる。一方、まだ学習中の外国人にはそれほど必要だと思われていない。

続いて、日本人と日本語学習者に、インターネットや本で正しい敬語の使い方をよく探しているかどうかについて質問した。回答は以下の通りである。

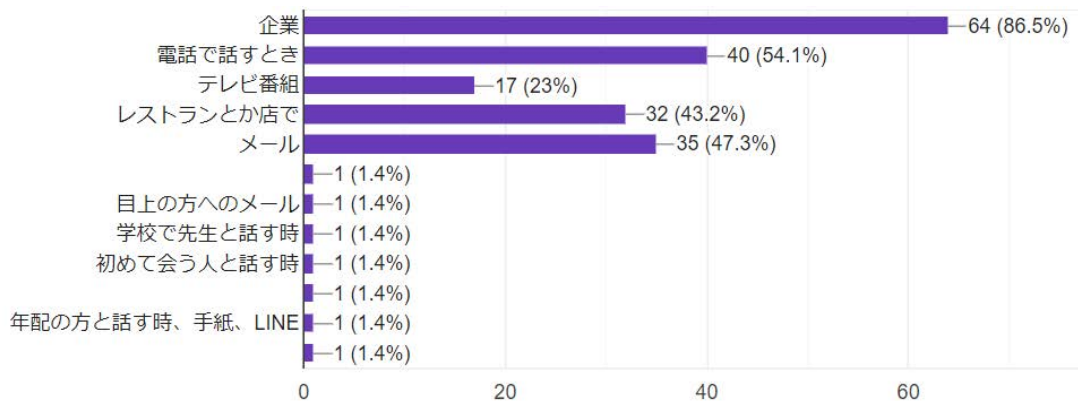


グラフ（3）

結果を見ると、67, 6%がよく探している、32, 4%が探していない。「いいえ」と答えた人の中には、外国人もいるが、日本人ほど多くない。インターネットに書いてある情報では時々足りないこともあるが、正しい日本語で書いたメールを送りたい、また面接の準備をしているような人が敬語の正しい使い方を探しているのではないだろうか。

続いて、どのような場合に、敬語がよく使われるのかについて質問した。

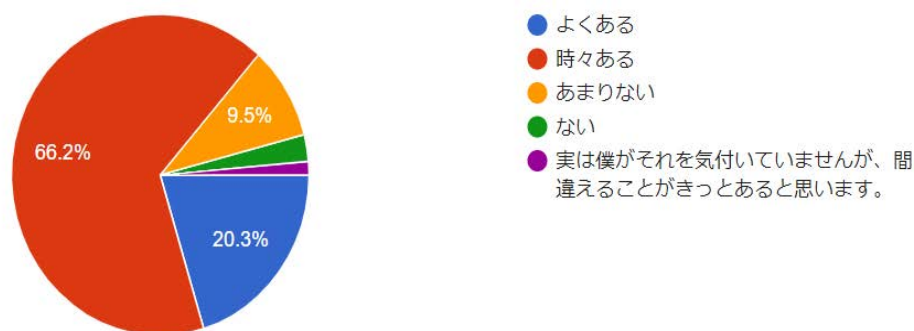
グラフ（4）を見てみよう。どのような場合に、敬語がよく使われるのかと質問したのだが、色々な選択肢を用意した。



グラフ（4）

グラフ（4）を見ると、企業と答えた方が64人、「電話で話すとき」と答えた方が40人である。また、メールと答えた人が35人である。この結果から、企業の仕事では敬語が大事ということが分かる。つまり、企業で使われているビジネス日本語では、敬語が大切と考えられているようである。メール、電話もビジネス日本語とつながる。「その他の意見」には、日本人から色々な意見が出てきた。「学校で先生と話すとき」、「初めて会った人と話すとき」、「年配の方と話すとき、手紙」とかいろいろな意見が出てきた。もちろん、日本社会で、初めて会う人や目上の人と話すとき敬語は必要である。

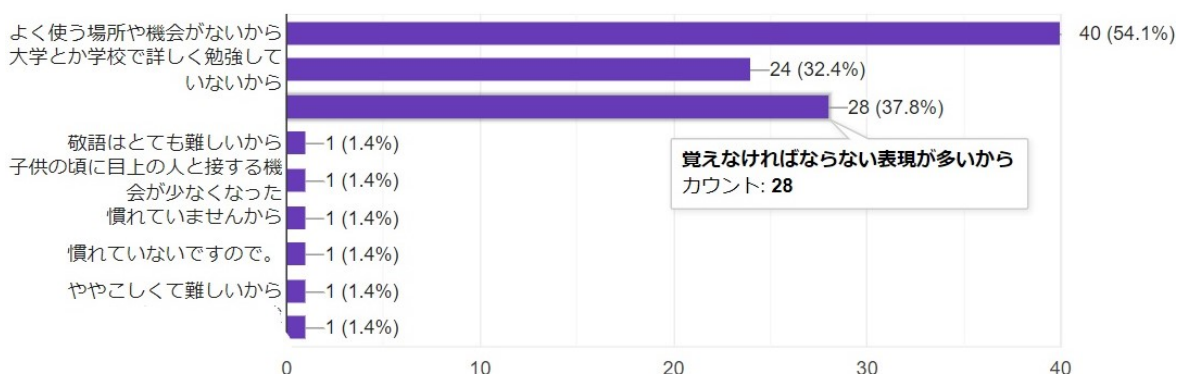
次に、敬語表現を使っている際に、間違えることがあるかどうかについて質問した。



グラフ（5）

グラフ（5）によると、アンケート対象者の 66.2%が時々間違える、残り 20.3%の人がよく間違えると回答している。「よくある」と答えた人の中には日本人も多い。「ない」と答えたのは二人だけで、この結果から、日本語学習者と同じように日本人にとっても敬語は難しい問題なのだということが分かる。

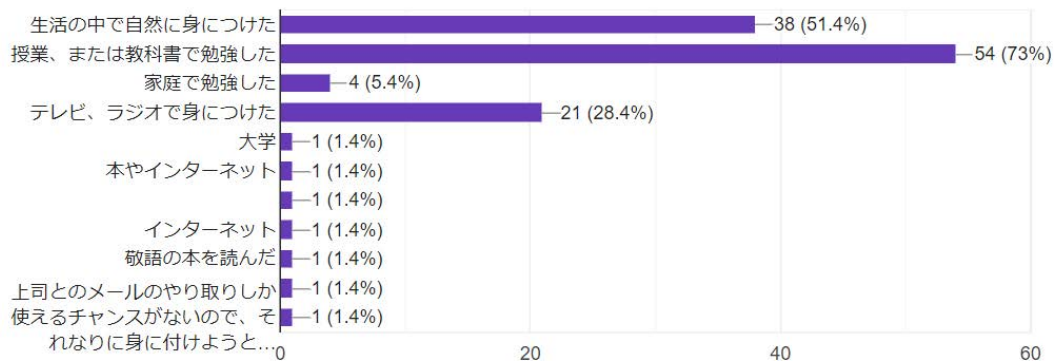
続いて、敬語が間違っている理由を尋ねた。結果は以下の通りである。



グラフ（6）

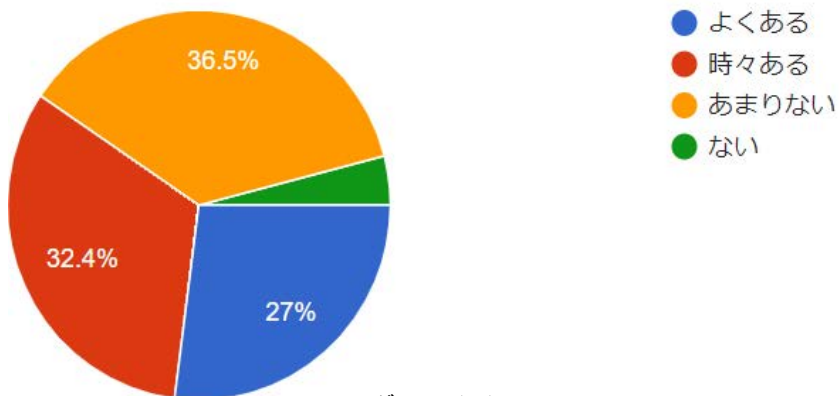
グラフ（6）に示した通り、アンケート対象者の 40 人が「よく使う場所や機会がないから」、28 人が「覚えなければならない表現が多いから」、24 人が「大学と学校で詳しく勉強していないから」と答えた。「他の意見」のところでは、「慣れていないので」という答えがあり、それも一つの理由である。

次に、どのような方法で敬語を身につけましたかと尋ねた。回答は以下の通りである。



グラフ（7）

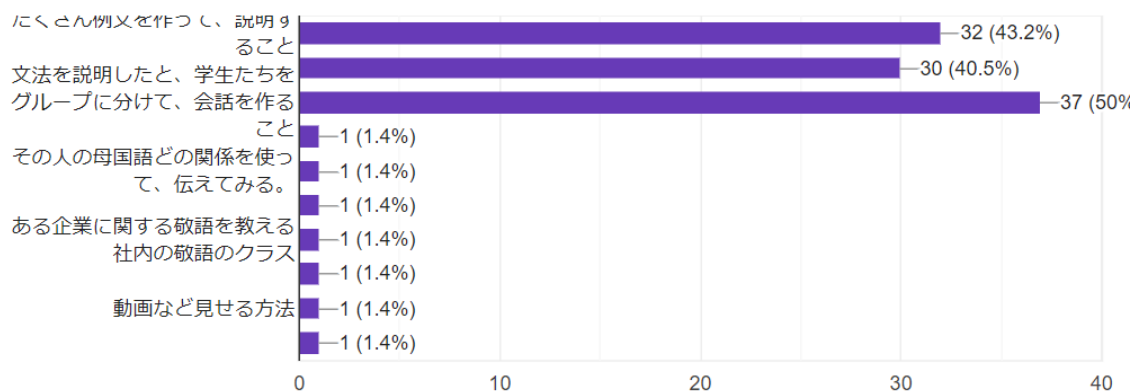
尊敬語と謙譲語の使い分けが分からない場合があるかについて質問した。グラフ（8）を見てみよう。



グラフ（8）

その結果を見ると、アンケート対象者の 36.5%が「あまりない」と答えた。時々あると答えた対象者の中で、日本語学習者の人数が多い。

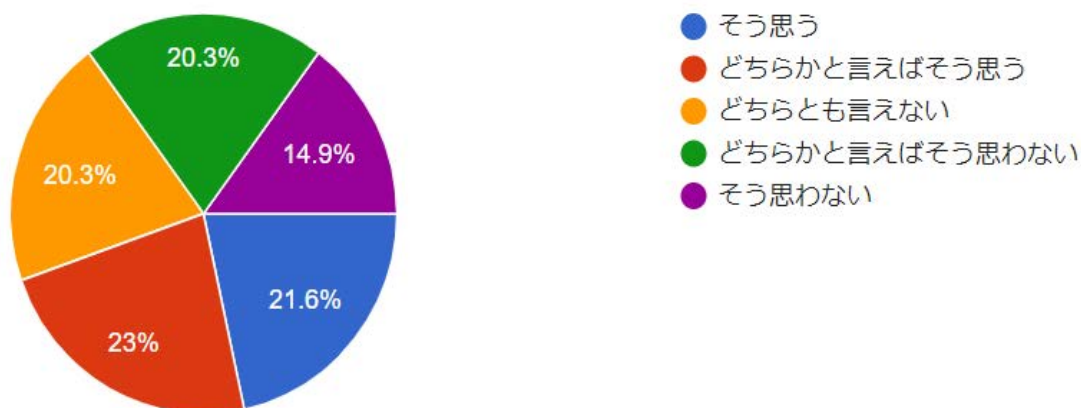
次に、日本語教育で日本語学習者に関して敬語の教え方で「どの方法がいいと思いますか」と尋ね、以下のような結果となった。



グラフ（9）

グラフ（9）を見ると、3 番目の方法、「文法を説明したあと、学生たちをグループにわけて、会話を作ること」と答えた人が 37 人である。その他、一人の日本人学生の意見、「その人の母国語との関係を使って、伝えてみる」は本当にいい方法だと思われるが、敬語という文法がない英語、アラビア語などを母語とする学習者にこの方法は使えない。

続いて、以前から個人的に感じていた疑問、「丁寧語（—ます）だけで十分だと思いますか」を対象者に尋ねた。回答は以下の通りである。



グラフ（10）

その結果を見ると、意見はそれぞれ違う。回答者と回答の分布を、図（4）に示す。

	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらとも言え ない	どちらかと言え ばそう思わない	そう思わない
日本人	2名	5名	4名	9名	6名
日本語 学習者	15名	12名	11名	6名	5名

表 3

表 3 を見ると、丁寧語だけで十分と考える日本語学習者の数が、日本人と比べると多い。「そう思わない」と答えた日本人と日本語学習者の人数がだいたい同じ、学習者の中でも敬語が重要であると分かっている人が結構いるように思われる。日本人の答えを見ると、日本語の文法で「敬語表現」は絶対勉強しなければならないものだと分かる。

5. まとめ

この研究によって日本人と日本語学習者には敬語使用の意識に違いがあることが分かった。日本語学習者にとって「敬語表現」の問題は、日本語と同じシステムを持っている言語が少ないことにある。また、「敬語表現」には、そのまま覚えなければならない表現が多いため、特定の場面だけで使われている敬語表現はどうしても覚えにくい。

教える方法については、敬語の意味が理解できない学習者に教科書の例文だけで説明するのではなく、敬語が使われているビデオを見せ、学生をグループに分けて会話させる方がいい。また、日本語学習者を対象にした、わかりやすい説明が付けられた教材、ビデオも必要だと思う

日本語母語話者も、自分自身の言語生活を自覚し、自分の使う言葉や表現を磨いていくために日々研鑽を積む必要があるのだろう。

参考文献

文化庁（1995-1998）『国語に関する世論調査』文化庁文化庁国語課「世論調査報告書」

蒲谷 宏（2006）『敬語表現教育の方法』大修館書店

北 直美（1995）『日本語教育における待遇表現の研究』北陸大学紀要（Bulletin of Hokuriku University）

蒲谷 宏（2010）『敬語コミュニケーション（日本語ライブラリー）』朝倉書店

バルバラ・ピッツィコーニ（1998）『待遇表現から見た日本語教科書—初級教科書五種の分析と批判（日本語教育基礎研究シリーズ（4））』くろしお出版

魏, 春娥（2014）『日本人と外国人日本語学習者の敬語使用に関する考察：敬語表現調査の結果の分析を中心に』出版社版

末岡 実（2017）『正しい敬語』阿部出版